

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第1号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

令和7年産麦作情報（第1号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…11月中旬～11月下旬まで平均すると、平年より2.0℃高かったが、半旬毎に見ると4半旬は平年より3℃高かったが、5半旬はほぼ平年並みとなり、6半旬は平年より0.8℃低くなっている。
- ◆降水量は…11月中旬～5半旬まで降雨は少なく推移したが、11月26日にややまとまった降雨がみられた。11月20日～30日までの降水量を平均すると、平年比123%と平年よりやや多く推移している。
- ◆日照時間…11月20日～30日までの日照時間は、平年と比較してやや長く推移している。（平年比108%）

2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果（今後調査区の設置を予定）

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	備考
鍋島	シロガネコムギ	11/24	—	—	—	—	・播種期は平年並み
蓮池	さちかおり	11/20	—	—	—	—	・播種期は平年並み
川副	はるか二条	12/2	—	—	—	—	・播種期は平年並み

※生育調査は、1月～予定

【概況】

- ・11月中旬は概ね晴天であったため播種に係る作業は順調に進んだが、26日以降降雨がいたことや大豆収穫作業の遅れに伴い、播種が遅れている圃場が見られる。
- ・小麦の播種は、11月中～下旬を中心に行われ、現在、出芽期を迎えている。
- ・大麦の播種は、11月下旬～行われ、現在、播種作業が進んでおり出芽前である。

3. 今後の管理

1) 播種時期と播種量の目安（播種量の詳細は栽培暦を参考にしてください）

- ・播種期が遅くなると、生育遅延から収量の低下も懸念されるので、生育量を確保し収量を得るためにも、なるべく12月中旬までに播種できるよう作業計画を立てる。
- ・12月中旬以降の播種では、気温が低下し出芽に要する日数が長く、結果として苗立ち率が劣る。そこで、苗立ち数の確保を図り穂数の減少を防ぐため、適期の播種量を基準として播種適期から5日遅れる毎に「0.5Kg/10a」程度、播種量の増量を行う。
- ・「さちかおり」や「はる風ふわり」で播種量が多くなると細莖化し、倒伏しやすくなるため播き過ぎに気を付ける。 ※ 播種限界は、1月15日前後（小麦・大麦）である。

2) 播種方法

- ・播種は、浅過ぎても、深過ぎても苗立に大きく影響する。
適性播種深度である「2～3 cm」を目途に播種作業を行い、苗立数を確保する。
- ・播種後は鎮圧し、種子周辺の水分確保を行うことで発芽を揃える（土壌処理除草剤の効果も高まる）。
※土壌水分が高い状態で行うと逆効果となるため、乾燥した状態で実施する。

○播種深が浅過ぎる場合・・・

（播種後に適度な降雨があれば出芽は順調で分げつは旺盛となる。
降雨がなく乾燥条件が続くと出芽率が低下する。
播種直後除草剤の散布により薬害を生じる恐れがある。）

○播種深が深過ぎる場合・・・

（出芽が遅れ苗立ちが不足する。
分げつも少なくなり、必要穂数の確保ができずに減収する恐れがある。）

3) 施肥

○元肥

- ・小麦は12月上旬播種まで、大麦では12月中旬播種までは基準どおり施肥を行う。

表) 12月中旬以降に播種する場合の施肥

播種時期	麦種	元 肥	追 肥
12月中旬	大麦	基準どおり	基準どおり
	小麦	基準より2割程度増肥する	基準より2割程度減肥する
12月下旬以降	小麦 大麦	元肥+追肥分を施肥する ※1	施肥しない

※1) 元肥+追肥の窒素総量を10～20%基準から減じる。

○追肥（本葉3～4葉期頃）

- ・追肥は生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・土壌が乾かず、散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1～2割程度増やす。
- ・追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。

4) 麦踏み（3葉期以降）

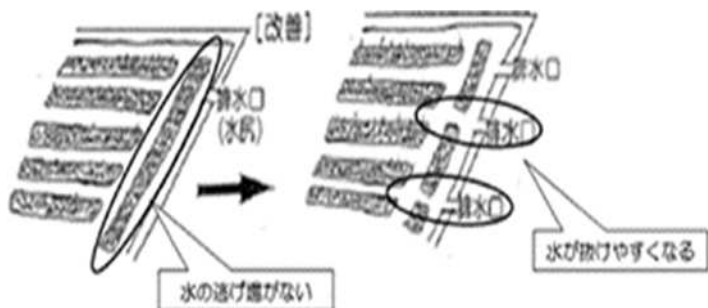
- ・麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。
- ・土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し排水性が悪くなる。

【麦踏みの効果】

①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

5) 排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- 近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



6) 鳥獣害対策

○カモによる食害

- 川沿い(嘉瀬川、筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害が懸念される。
- 被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

（症状）

- 麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- 周辺に鳥の糞が落ちている。



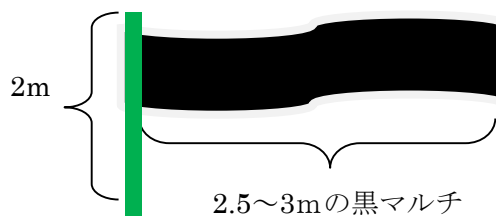
▲【カモによる食害痕】



▲【カモによる食害圃場】

（対策）

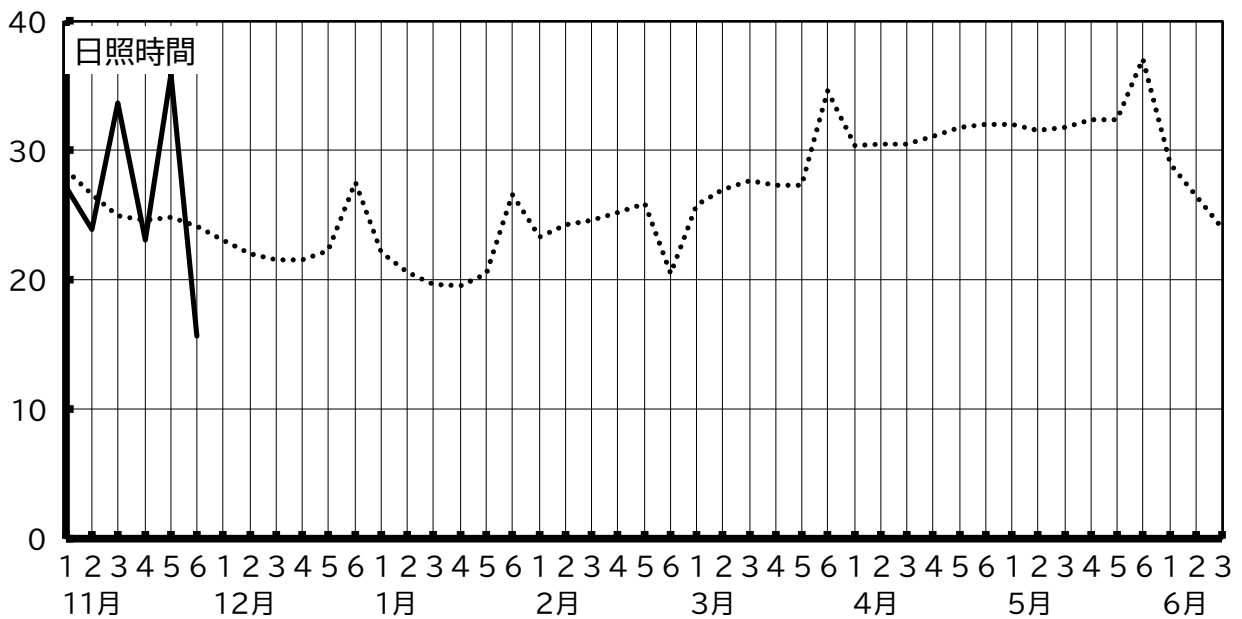
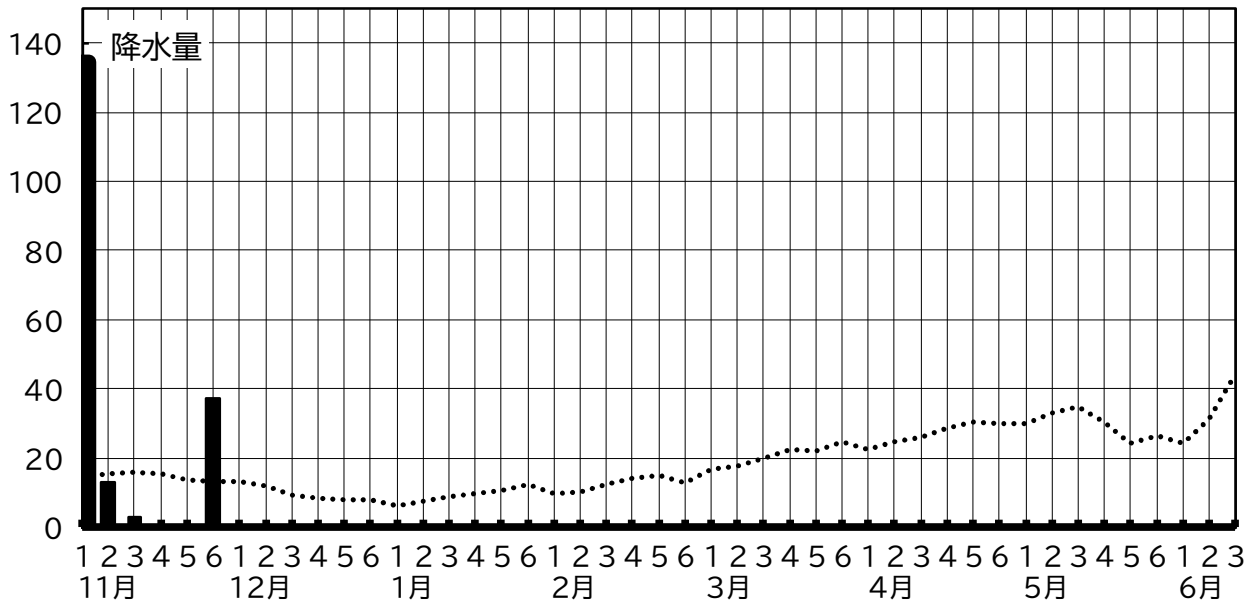
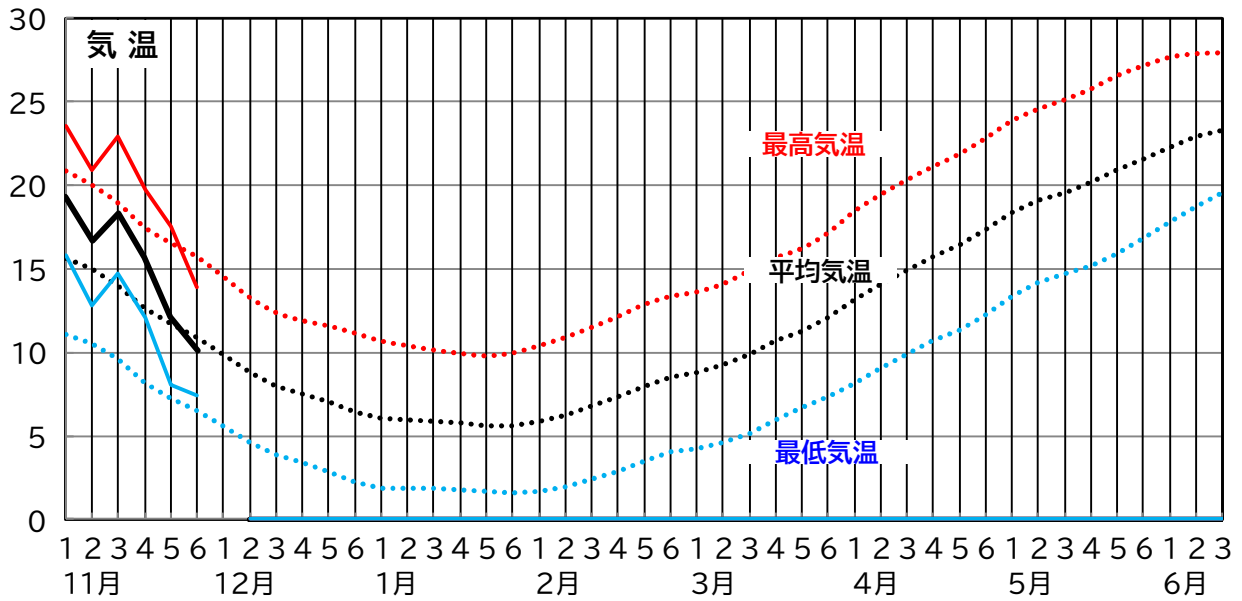
- カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。
- 水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- 2.5～3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。
（費用は、「のぼり」1本あたり約420円）



令和7年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値